

1粒の種から1万個超える 3季目で目標達成の東海市立農業センター

臼井昭仁 2023年5月28日 10時00分



棚いっぱいに入ったトマト=2023年5月18日、愛知県東海市富木島町の市立農業センター、臼井昭仁撮影



愛知県東海市の市立農業センター(同市富木島町)で、1粒のトマトの種を育てて1万個を超える実ができた。挑戦から3季目での目標達成。6月初めにすべて収穫し、料理の材料などに使う予定だ。

種類は、スーパーでも販売されている中玉の「高リコピントマト」。カゴメ(名古屋市中区)から提供を受けた2粒の種を昨年9月に植え、成長の良い1株をハウス内で養液栽培してきた。

10月に花が咲き、12月に最初の実ができた。今年3月には実が5千個超に。一部は収穫し、5月16日に計1万個超の実を確認。今月末には計1万2千個になると見込んでいる。

今の株の幹回りは15センチ。栽培棚は高さ2・3メートルで、幅7メートル、奥行き10メートルにわたって茎が伸び、無数の真っ赤な実がぶら下がっている。

同センターでは、洋ランなどを育て、栽培技術の研究をしている。来訪者に農業の面白さを知ってもらおうと2020年秋から、今回の取り組みを始めた。21年、初めての収穫量は3千個、22年は同6千個だった。

今季は、害虫で弱らないよう消毒の回数を月1回から2回に増やしたり、遮光ネットを付けたり、湿度を少し上げたりした改善策が奏功したという。

中島克所長は「ハウスの大きさのため来季はこれ以上、収穫量を増やせないが、品質を上げ、市民向けの収穫体験会を何度も開けるようにしたい」と話す。センターは入場無料(月曜休館)。トマトのあるハウスも一般公開している。(臼井昭仁)

有料会員になると会員限定の有料記事もお読みいただけます。

[今すぐ登録\(1カ月間無料\)](#) [ログインする](#)

※無料期間中に解約した場合、料金はかかりません